

たてはく

祝！ まんだら遊苑開苑30周年

館長 岡田 知己

平成7年7月7日、立山博物館「まんだら遊苑」が開苑しました。右の写真は、オープニングイベント第2部「闇の部」の一場で、7月7日午後7時7分7秒に閻魔大王に扮した当時の中沖豊富山県知事が、立山山頂に坐す立山権現を迎え、「開苑の宣示」を読み上げているところです。

立山博物館は、教界・聖界・遊界の3つのゾーンからなる全国でも珍しい広域分散型の博物館です。平成3年11月1日に開館したことから、開館記念日は11月1日ですが、広域分散型の博物館として完成したのは、まんだら遊苑が開苑した平成7年7月7日であり、7月7日も記念すべき大切な日です。

国内外に2つとなくこころの遊園地>が誕生し、今年で30年になります。さらに今年は令和7年7月7日と30年ぶりに「7」が3つ並びます。博物館でも開苑30周年を記念したイベント企画を現在検討中です。みなさん、どうぞご期待ください。



閻魔大王に扮した当時の中沖豊富山県知事



平成7年7月7日17時 まんだら遊苑開苑のテープカット

闇のイベント、知事の宣示

闇を裁く閻魔大王の中沖でござる。

あの世の人間界では、今宵七月七日は七夕ということで星に祈るときが、ここ闇の世界も、今は七が五つ並ぶわが閻魔の時でございます。

闇くところによると、天の世界では、四遊苑という庭園があるそうだが、闇の世界であるこの世にも、新しい遊苑が完成した。「まんだら遊苑」と申す、こころの遊園地でございます。

この遊苑は、立山の歴史と伝統が凝集された立山曼荼羅の世界を、具象化した施設でございます。国内外にも二つとないこの施設を、五感をとおして遊びながら体感されよ。

凛々しき「立山」が育みし、「立山のこころ」幾久しく、あまたの国民に紹介する「まんだら遊苑」の開苑を、ここに宣言する。

目次

祝！ まんだら遊苑開苑30周年	1
令和7年度 特別企画展のご案内	
前期特別企画展「立山を描く一山に向けられたまなざしー」	2
後期特別企画展「英国から立山へー『日本旅行案内』にみる立山ー」	2
ミニ出張展示	
まんだら遊苑・開苑30周年記念「まんだら遊苑の世界ー五感で体験する地獄と浄土のテーマパーク」	2
学芸課発 立博雑学	
第16回 間取図を読み解こう	3
たてはく 出前講座&団体見学受付中！	3
令和7年度 催し物案内	4
令和7年度「たてはく友の会」の会員大募集！	4
編集後記	4





令和7年度 特別企画展のご案内

前期特別企画展

立山を描く 一山に向けられたまなざしー

会期：7月19日(土)～8月24日(日)

古来、神の山とされてきた「立山」は、雄大な山並みが屏風のように広がる姿で人々の心を捉えてきました。

立山が、いわゆる表現媒体に最初に登場するのは、奈良時代末に成立した、現存最古の歌集『万葉集』に文字で記されたものです。絵画として登場したのがいつかは定かではないものの、古くは、池大雅(1723-76)が宝暦10年(1760)に富士山・立山・白山に登った際のメモ帖を貼り交ぜた屏風、『三岳紀行図』(京都国立博物館蔵)や、次いで、文化2年(1805)に売り出された谷文晁(1763-1840)の本、『名山図譜』があります。また、『立山曼荼羅』には山中から山麓までが表され、絵地図と立山の伝承を記す絵図もありますが、これらはいずれも、立山の様相を伝えるという実用的な面に主眼をおいたものといえます。

明治時代になると、山への立入りが自由になったことや、西洋文化の影響による近代的な考え方の広まりから、山は、表現自体を意識した絵画や写真、映画などの主題として取り上げられるようになっていきます。

本展では、このような歴史を踏まえつつ、近現代の作品や資料を中心に紹介します。様々な視点から多彩に表現された立山の姿をご覧ください。

(鈴木博喬)



「明治四十一年六月 寫生帖 第参拾四号」(部分)
石崎光瑤 富山県[立山博物館]蔵

【担当学芸員展示解説会】7月19日(土)、8月2日(土)、8月16日(土) いずれも14:00～15:00

後期特別企画展

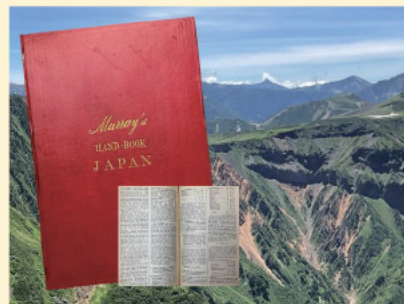
英国から立山へー『日本旅行案内』にみる立山ー

会期：9月13日(土)～11月3日(月・祝)

明治14年(1881)、駐日英国公使館の書記官だったアーネスト・サトウとアルバート・ジョージ・シドニー・ホースは、自身や他のイギリス人が旅した日本の都市や山岳地域の情報をまとめ、当時世界的に有名だったロンドンのマレー社のガイドブックを参考に、外国人向けの日本旅行ガイドブック『日本旅行案内』を出版しました。このガイドブックは多くの訪日外国人が手にし、彼らはその情報をもとに日本各地を旅しました。立山についての記述も多くみられ、立山の標高、植生、生物、岩石などの分析と、旅の順路や宿泊先、見どころが記載されています。

本企画展では、西洋における山の認識の変化と『日本旅行案内』が書かれた時代背景、イギリス人たちが立山で何を見て、どう記録したかを紹介します。外国と立山の関係の黎明期を見る中で、年々増加する外国人に向けて、立山の魅力をどのように伝えていくことができるのかを考えるきっかけとなれば幸いです。

(河野史明)



【担当学芸員展示解説会】9月13日(土)、9月27日(土)、10月11日(土)、10月25日(土) いずれも14:00～15:00
11月2日(日)、11月3日(月・祝) 13:00～14:00

ミニ出張展示

まんだら遊苑・開苑30周年記念

「まんだら遊苑の世界ー五感で体験する地獄と浄土のテーマパーク」

立山博物館のまんだら遊苑は、「五感で立山曼荼羅の世界を体験する」をコンセプトに、平成7年(1995)7月7日に開苑しました。六角鬼丈氏による設計で、4年の歳月をかけて竣工した施設です。

令和7年7月7日に30周年を迎えるのにあたり、富山県教育文化会館内の画廊喫茶ルーエにて、まんだら遊苑の世界観とこれまでの30年を振り返るパネル展を行います。

会 期：5月2日(金)～5月30日(金)
時 間：平日9:00～17:00、土・日・祝10:00～16:00
場 所：富山県教育文化会館 画廊喫茶ルーエ
休館日：富山県教育文化会館の休館日に同じ





学芸課発

立博雑学



学芸課によるリレー形式のコラムです。立山や立博に関するうんちくの蘊蓄や魅力を、雑学としてお伝えします。

第16回 間取図を読み解こう

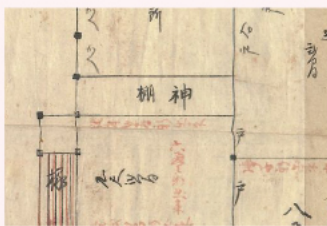
当館では昨年度の秋より、「森家文書」の調査をしています。本文書群は、岩峯寺の宿坊・永泉坊出身の神道学者である佐伯有義博士から、その孫にあたる所蔵者に伝来したものです。今回の立博雑学では、この「森家文書」に含まれる3つの間取図を見比べます。

いずれも永泉坊の間取図ですが、書かれた時代が違うようです。間取図Aは天保9年(1838)、Cは安政5年(1858)に書かれた弘化4年(1847)時点の間取図です。Bは記年が無いものの、建物の様子から察するに、AとBの間の時代に書かれたものと思われます。

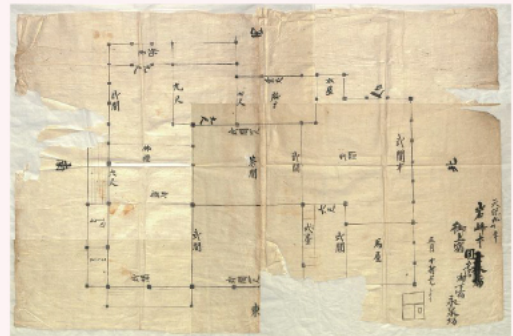
画像が小さくしか載せられないのが残念ですが、間取り図から、面白いことがいくつも読み取れます。まず、間取りが芦峯寺の善道坊や教算坊とは違います。芦峯寺の宿坊建築は、入ってすぐ正面の、建物中央部に仏間と須弥壇(立山権現を祀る仏壇)があります。一方の永泉坊は、入口から遠い建物の南奥に「仏壇」があります。普通、民家では、格の高い仏壇や仏間などの部屋は、建物の入口から遠い奥の方に造られますので、そう考えると、永泉坊の方は民家としてのセオリーに近い間取りだと言えるでしょう。ちなみに間取図Bでは、仏壇が「神棚」と表記されています。初見では、廃仏毀釈とともに岩峯寺宿坊家が神社へ転向したことと関係しているのかと思いましたが、恐らく時代にそぐわないでしょう。どのように解釈すべきか、今後の課題です。

また、永泉坊は、改築を繰り返していたようです。比較的減築傾向にあるものの、必ずしもそうではなく、馬屋を潰して部屋にしたり、土間を大きな庭にしたり、物置や部屋、廊下を建て増したりと、20年ほどの間に、生活様式によって家屋が変化していったことを伺わせます。間取図は、家やそこに住む人、住環境の変化など、さまざまな歴史を読み解くことができる貴重な史料なのです。

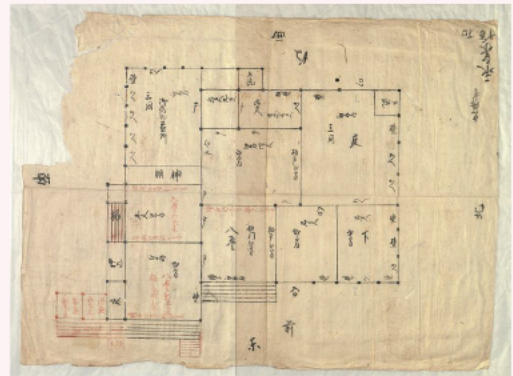
(坂口 舞)



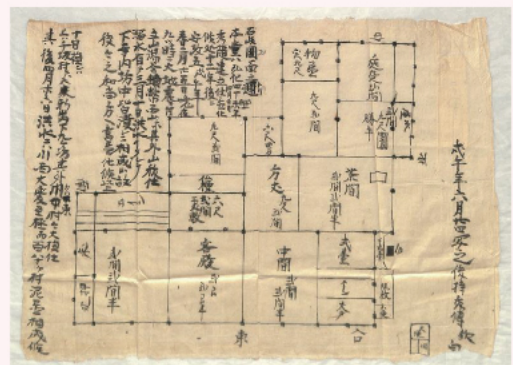
・間取図B部分拡大



・間取図A 天保九年戊辰岩峯寺御上宿園光坊御下宿永泉坊間取図



・間取図B 永泉坊図面扣



・間取図C 永泉坊弘化四年図面写

※資料名は、内容より筆者付す

たてはく 出前講座&団体見学 受付中!

学芸員が県内各地の小中学校、高校へ伺って立山の自然や歴史をお話しする出前講座を行っています。授業の時間内に合わせ、教室での授業の他、ランチルームや体育館などでの大人数の講演形式の講座でもOKです。事前に打ち合わせをさせていただき、内容や時間のご希望にお応えいたします。毎年、ビニール製複製立山曼荼羅とパワーポイント資料を持って伺いし、小学校は立山登山の事前学習、高校では郷土学習で好評をいただいています。

学校遠足での団体見学もお待ちしています。滞在時間に合わせ、各施設の見学日程のご提案や展示解説もしています。また立山登山のご計画では、雨天で登山が中止の場合のみの利用予約も可能です。お気軽にお問合せください。

(吉野俊哉)





令和7年度の催し物案内

●各行事の詳細は博物館ホームページまたは電話でお問い合わせください。

令和7年度も
楽しいイベントが
満載!!

まんだら遊苑・開苑30周年記念イベント

(1)開苑30周年記念講演会(文化講演会)

講師：六角美瑠氏(神奈川大学建築学部教授)
演題：「まんだら遊苑 これまでとこれから」
開催日：7月6日(日)
時間：13:30～15:00 ※開場は13:00～
場所：遙望館
定員：100名
聴講料：無料 ※申込不要、先着順

(2)まんだら遊苑スペシャルツアー

スペシャルコンダクターとともにまんだら遊苑を巡ります。
講師：六角美瑠氏、高谷光氏(六角鬼丈計画工房)
開催日：7月6日(日)
時間：15:15～16:45
集合：まんだら遊苑 地界入口
参加料：通常の入苑料(一般400円)
※講演会を聴講された方は無料で招待

令和7年度「たてはく友の会」の会員大募集!

立山についての理解を深めたい方や立山博物館事業に積極的に参加して下さる方、ぜひご入会ください。心よりお待ちしております。

◎特典 ①有料施設の観覧が無料/②特別企画展の観覧が無料/③博物館行事のご案内/④博物館交流誌「たてはく」(年4回発行)と「研究紀要」(年1回)の郵送/⑤図録ほか、博物館オリジナルグッズの20%割引(一部を除く)/⑥友の会主催行事への参加(バスツアーは、一部実費負担あり)

◎会費(年額) 一般会員 3,000円
賛助会員(企業・団体等) 20,000円[一口]

◎期間 入会日から入会年度の3月31日まで

◎入会方法 当館受付窓口にて直接申込、または「たてはく友の会事務局」(TEL076-481-1216)まで入会申込書をご請求のうえ、郵便局で会費をお振り込みください。



令和6年度の友の会バスツアー
(静岡県富士山世界遺産センター)

◆しゃぼん玉デー in 教算坊

大人気のシャボン玉イベントを教算坊の庭で行います。
開催日：5月5日(月・祝)、6日(火・振替)
時間：13:00～15:00
場所：教算坊 ※申込不要、参加無料、荒天中止

◆たてはく探検隊

立山の自然、歴史、文化について親子で楽しく学びます。
開催日：7月20日(日)
時間：9:30～12:30
場所：展示館、教算坊、閻魔堂ほか
対象：小学生(保護者同伴)
定員：25名 ※要事前申込、参加無料
◎申込方法など、詳細は6月中旬にHPやチラシなどでお知らせします。

◆ミュージアム de ナイト in 芦峯寺

「地獄博物館」に変身させ、普段と違った演出で夜間開館いたします。
開催日：8月9日(土)、10日(日)
時間：18:00～21:00(入館は20:30まで)
会場：展示館、教算坊、山岳集古未来館
観覧料：常設展+企画展観覧料(一般500円) ※高校生以下は無料

◆まんだらナイトウォーク -光りと香りのページェント-

幻想的なキャンドルの光りと、アロマの香りの演出で、夜のまんだら遊苑を楽しむことができます。
開催日：9月6日(土)、7日(日)
時間：18:30～20:30(入苑は20:00まで)
場所：まんだら遊苑
観覧料：一般400円
※大学生以下、70歳以上は無料

◆ちょっと昔の映像上映会

明治から昭和にかけての立山や芦峯寺集落の映像を解説付きで上映します。
開催日：11月1日(土)
時間：14:00～14:40
場所：教算坊
聴講料：無料 ※申込不要

◆もみじを愛でる会

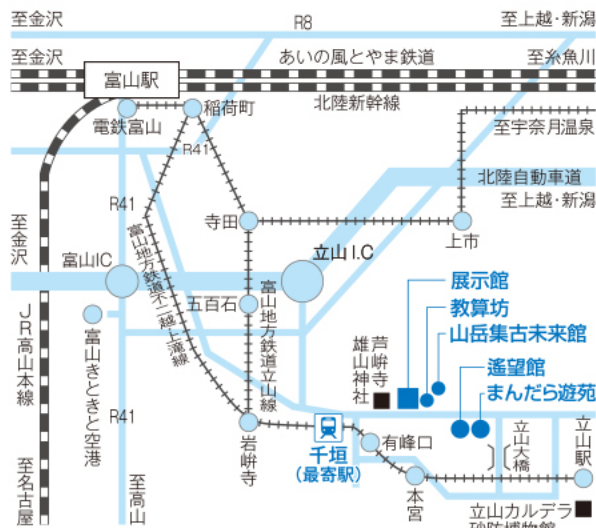
教算坊において、紅葉を見ながら「立山曼荼羅」の絵解き解説などを行います。
開催日：11月2日(日)、3日(月・祝)
場所：教算坊 ※申込不要、参加無料
絵解き時間：各日とも11:00～11:40と14:00～14:40の2回

- ◆休館日 月曜日(祝日を除く)、祝日の翌日、年末年始(12月29日～1月3日)
※4月29日(火)～5月6日(火・振替休日)は休まず開館。
- ◆臨時開館日 4月30日(水)、7月22日(火)、8月12日(火)、3月21日(土)
- ◆臨時休館日 7月18日(金)、9月12日(金)、12月28日(日)

編集後記

令和6年度も無事に終了。イベントが以前のように開催できるようになったおかげで、来館して下さるお客様の数も復活してきました。そのような中で、立博一番の人気施設「まんだら遊苑」が令和7年7月7日に30周年を迎えます。令和7年度は「まんだら遊苑フィーバー」となれば嬉しいです(H)。

案内図



●最寄り駅

富山地方鉄道立山線千垣駅
下車徒歩約30分(約2km)
※日曜を除き町営バス事前予約運行
「雄山神社前」下車すぐ

●自家用車で

JR富山駅から 約45分
立山駅(千寿ヶ原)から 約15分
富山インターチェンジから 約35分
立山インターチェンジから 約30分

立山博物館のHPは
こちらから



人間と自然のかかわり方を学ぶ

富山県[立山博物館]

〒930-1406 富山県中新川郡立山町芦峯寺93-1
TEL 076-481-1216 FAX 076-481-1144



でも情報発信中

立山博物館

